



ブート整合性の可視性

- [ブート整合性の可視性について \(1 ページ\)](#)
- [ソフトウェアイメージとハードウェアの確認 \(3 ページ\)](#)
- [プラットフォーム ID とソフトウェア整合性の確認 \(3 ページ\)](#)
- [イメージ署名の検証 \(7 ページ\)](#)
- [ブート整合性の可視性に関する追加情報 \(8 ページ\)](#)
- [ブート整合性の可視性の機能履歴 \(8 ページ\)](#)

ブート整合性の可視性について

ブート整合性の可視性によって、シスコのプラットフォーム ID とソフトウェアの整合性情報が可視化され、実用可能になります。プラットフォーム ID は、プラットフォームの製造元でインストールされた ID を提供します。ソフトウェアの整合性ではブート整合性の測定値が明らかになり、それを使用してプラットフォームが信頼できるコードを起動しているかどうかを評価できます。

ブートプロセス中に、ソフトウェアはブートローダーアクティビティの各ステージのチェックサムレコードを作成します。

このレコードを取得して、シスコ認定レコードと比較し、ソフトウェアイメージが正規かどうかを確認できます。チェックサム値が一致していない場合は、シスコによって認定されていない、または未承認パーティによって改ざんされているソフトウェアイメージを実行している可能性があります。

イメージ署名とブートアップ

シスコの構築したサーバが Cisco IOS XE イメージを生成します。Cisco IOS XE イメージの場合、Abraxas イメージ署名システムを使用して、シスコの秘密 RSA キーでイメージに安全に署名できます。

Cisco IOS XE イメージを Catalyst 9000 シリーズスイッチにコピーすると、シスコの ROMMON ブート ROM がシスコのリリースキーを使用してイメージを検証します。これらのキーは、

Abraxas サーバに安全に保存されているシスコのリリース秘密キーに対応する公開キーです。リリース秘密キーは ROMMON に保存されます。

Catalyst 9000 シリーズスイッチは、ブート整合性の可視性機能をサポートしています。ブート整合性の可視性は、ROMMON ソフトウェアが改ざんされていないことを確認するために、ROMMON ソフトウェアを検証するハードウェア トラスト アンカーとして機能します。

Cisco IOS XE イメージは、構築時にデジタル署名されます。バイナリイメージファイル全体に対して SHA-512 ハッシュが生成され、このハッシュがシスコの RSA 2048 ビット秘密キーで暗号化されます。ROMMON は、シスコの公開キーを使用して署名を検証します。このソフトウェアがシスコの構築したシステムによって生成されたものではない場合、署名の検証は失敗します。デバイスの ROMMON はイメージを拒否し、起動を停止します。署名の検証に成功すると、デバイスはイメージを Cisco IOS XE ランタイム環境で起動します。

ROMMON は、ブートアップ中に署名付き Cisco IOS XE イメージを検証する際、次の手順を実行します。

1. Cisco IOS XE イメージを CPU メモリにロードします。
2. Cisco IOS XE パッケージのヘッダーを調べます。
3. イメージに対して非セキュア整合性チェックを実行し、ディスクまたは TFTP で意図しないファイル破損が生じていないことを確認します。これは非セキュア SHA-1 ハッシュを使用して実行されます。
4. シスコの RSA 2048 ビット公開リリースキーを ROMMON ストレージからコピーし、シスコの RSA 2048 ビット公開リリースキーが改ざんされていないことを検証します。
5. パッケージのヘッダーからコード署名用署名 (SHA-512 ハッシュ) を抽出し、シスコの RSA 2048 ビット公開キーを使用して検証します。
6. Cisco IOS XE パッケージの SHA-512 ハッシュを計算してコード署名の検証を実行し、コード署名用署名と比較します。これで署名付きパッケージの検証が実行されたこととなります。
7. Cisco IOS XE パッケージのヘッダーを調べて、プラットフォームタイプと CPU アーキテクチャの互換性を検証します。
8. Cisco IOS XE パッケージから Cisco IOS XE ソフトウェアを抽出して起動します。



(注) 上記のプロセス中、手順3はイメージの非セキュアチェックであり、ディスクエラー、ファイル転送エラー、またはコピーエラーによる偶発的な破損に関してイメージを確認することを目的としています。これはイメージコード署名の一環ではありません。このチェックは、意図的なイメージの改ざんを検出するためのものではありません。

イメージコード署名の検証は、手順4、5、および6で行われます。これは、2048 ビット RSA キーで暗号化された SHA-512 ハッシュを使用した、イメージのセキュアコード署名チェックです。このチェックは、意図的なイメージの改ざんを検出することを目的としています。

ソフトウェアイメージとハードウェアの確認

このタスクでは、スイッチの起動時に作成されたチェックサムレコードを取得する方法について説明します。特権 EXEC モードで次のコマンドを入力します。



- (注) 次のコマンドを実行した後で、メッセージ **% Please Try After Few Seconds** が CLI に表示されることがあります。これは CLI の障害を示すものではありませんが、必要な出力を取得するために必要な基盤となるインフラストラクチャの設定を示します。数分間待機して、コマンドを再度試すことをお勧めします。

メッセージ **% Error retrieving SUDI certificate** および **% Error retrieving integrity data** は、実際の CLI 障害を示します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show platform sudi certificate [sign [nonce nonce]] 例 : Device# show platform sudi certificate sign nonce 123	特定の SUDI のチェックサム レコードを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) sign : 署名を示します • (オプション) nonce : ナンス値を入力します
ステップ 2	show platform integrity [sign [nonce nonce]] 例 : Device# show platform integrity sign nonce 123	ブート段階のチェックサム レコードを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) sign : 署名を示します • (オプション) nonce : ナンス値を入力します

プラットフォーム ID とソフトウェア整合性の確認

プラットフォーム ID の確認

次に、PEM 形式でセキュアな固有デバイス識別子 (SUDI) チェーンを表示する例を示します。SUDI にエンコードされるのは、個々のデバイスの製品 ID とシリアル番号であり、何千ものデバイスからなるネットワーク上でデバイスを一意に識別できます。最初の証明書は Cisco Root CA 2048 で、2 番目はシスコの下位 CA (ACT2 SUDI CA) です。どちらの証明書も、


```
PdypCRuSk20GF80eDU0suIi4mbB87JS0VvLomdBtXdnxzRu4kPZNFz/7pjAVRT3R
gwMMYiEnDWQSVy7e4SZmyVgej55e3hTW/LTeU81CE0KR0YGDce5Phv2zdHtIsXrV
XsY+Fropfntt1FV9qqDskDWckf0bos6VsyWUpSCEGqF7LfNnBTKYvXUUmKXHKf/d
W5HgrYt6bQ/h/+0EP+MY2wpAiWMCfX6F+xW20vZfK8NzNesieB38IvuTkgefzhz2s
yGC0avAxqGd0j7atcRpdrJt9+KM9Vwuy4VJZgK/tl1fmTL4cawQ==
-----END CERTIFICATE-----
```

```
Signature version: 1
Signature:
```

オプションの RSA 2048 署名は、3つの証明書、署名のバージョンおよびユーザにより提供されるナンスに対するものです。

```
RSA PKCS#1v1.5 Sign {<Nonce (UINT64)> || <Signature Version (UINT32)> || <Cisco Root CA
2048 cert (DER)> ||
<Cisco subordinate CA (DER)> || <SUDI certificate (DER)> }
```

シスコの管理ソリューションには、上記の出力を解釈する機能が装備されています。しかし、OpenSSL コマンドを使用した簡単なスクリプトを使用してプラットフォームの ID を表示して署名を確認することもでき、それによってシスコの一意のデバイス ID を確保できます。

```
[linux-host:~]openssl x509 -in sudicert.pem -subject -noout
subject= /serialNumber=PID:C9200L-24T-4G SN:FDO1946BG05/O=Cisco/OU=ACT-2 Lite
SUDI/CN=C9200L-24T-4G
```

ソフトウェア整合性の確認

次に、ブート段階のチェックサムレコードを表示する例を示します。ハッシュ測定値は、連続してブートされたソフトウェアの3つの段階それぞれについて表示されます。これらのハッシュをシスコが提供する基準値と比較できます。出力に署名するオプションを使用すると、出力は正規であり改ざんされていないことを保証する機能が検証ツールに付与されます。リプレイ攻撃から保護するために、ナンスを提供できます。



(注) ブート整合性ハッシュは MD5 ハッシュではありません。たとえば、バンドルファイルに対して **verify/md5 cat9k_iosxe.16.10.01.SPA.bin** コマンドを実行すると、ハッシュは一致しません。

次に、インストールモードでの **show platform integrity sign nonce 123** コマンドの出力例を示します。この出力には、インストールされている各パッケージファイルの測定値が含まれます。

```
Device#show platform integrity sign nonce 123
Platform: C9200L-24T-4G
Boot 0 Version: SBOOT0.v27
Boot 0 Hash:
EE98DCD0D6AEA85C8891039F649664FCC3CF709CCFC7A6F248C9D5BA8463528F
Boot Loader Version: System Bootstrap, Version 10.2, DEVELOPMENT SOFTWARE
Boot Loader Hash:
920B7E7A15379EB9F3731A1FE2313C999F21032F8A1E7F4935DE742765740FE537E7B350E84121C00ED25567674FE15D80AF67F631A6B
OS Version: 16.10.01
OS Hashes:
cat9k_lite-rpbase.16.10.01.SPA.pkg :
```


イメージ署名の検証

次に、SHA-512ハッシュを使用した、ブートアップ中のイメージに対するセキュアコード署名チェックの例を示します。

```
switch:boot flash:packages.conf
boot: attempting to boot from [flash:packages.conf]
boot: reading file packages.conf
#
Performing Integrity Check ...
boot: parsed image from conf file: cat9k-rpboot.17.02.01.SSA.pkg
```

```
Loading image in Verbose mode: 1
```

```
Image Base is: 0x100099000
Image Size is: 0x2C83487
Package header rev 3 structure detected
Package type:30001, flags:0x0
IsoSize = 0
Parsing package TLV info:
000: 0000000900000001D4B45595F544C565F - KEY_TLV_
010: 5041434B4147455F434F4D5041544942 - PACKAGE_COMPATIB
020: 494C495459000000000000090000000B - ILITY
030: 4652555F52505F54595045000000009 - FRU_RP_TYPE
040: 000000184B45595F544C565F5041434B - KEY_TLV_PACK
050: 4147455F424F4F54415243480000009 - AGE_BOOTARCH
060: 0000000E415243485F693638365F5459 - ARCH_i686_TY
070: 50450000000000009000000144B45595F - PE KEY_
080: 544C565F424F4152445F434F4D504154 - TLV_BOARD_COMPAT
090: 0000000900000010424F4152445F6361 - BOARD_ca
0A0: 74396B5F545950450000000900000018 - t9k_TYPE
0B0: 4B45595F544C565F43525950544F5F4B - KEY_TLV_CRYPTO_K
0C0: 4559535452494E470000000900000004 - EYSTRING

TLV: T=9, L=29, V=KEY_TLV_PACKAGE_COMPATIBILITY
TLV: T=9, L=11, V=FRU_RP_TYPE
TLV: T=9, L=24, V=KEY_TLV_PACKAGE_BOOTARCH
TLV: T=9, L=14, V=ARCH_i686_TYPE
TLV: T=9, L=20, V=KEY_TLV_BOARD_COMPAT
TLV: T=9, L=16, V=BOARD_cat9k_TYPE
TLV: T=9, L=24, V=KEY_TLV_CRYPTO_KEYSTRING
TLV: T=9, L=4, V=none
TLV: T=9, L=11, V=CW_BEGIN=$$
TLV: T=9, L=17, V=CW_FAMILY=$cat9k$
TLV: T=9, L=74, V=CW_IMAGE=$cat9k-rpboot.17.02.01.SSA.pkg$
TLV: T=9, L=20, V=CW_VERSION=$17.2.01$
IOS version is 17.2.1
TLV: T=9, L=53, V=CW_FULL_VERSION=$17.2.01.0.869.1580816579..Amsterdam$
TLV: T=9, L=52, V=CW_DESCRIPTION=$Cisco IOS Software, IOS-XE Software$
TLV: T=9, L=9, V=CW_END=$$
Found DIGISIGN TLV type 12 length = 392
RSA Self Test Passed

Expected hash:
DDAF35A193617ABACC417349AE204131
12E6FA4E89A97EA20A9EEEE64B55D39A
```

```
2192992A274FC1A836BA3C23A3FEEBBD
454D4423643CE80E2A9AC94FA54CA49F
```

```
Obtained hash:
DDAF35A193617ABACC417349AE204131
12E6FA4E89A97EA20A9EEEE64B55D39A
2192992A274FC1A836BA3C23A3FEEBBD
454D4423643CE80E2A9AC94FA54CA49F
Sha512 Self Test Passed
Found package arch type ARCH_i686_TYPE
Found package FRU type FRU_RP_TYPE
Performing Integrity Check ...
```

```
RSA Signed DEVELOPMENT Image Signature Verification Successful.
```

ブート整合性の可視性に関する追加情報

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	<i>Command Reference (Catalyst 9200 Series Switches)</i>

ブート整合性の可視性の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	ブート整合性の可視性	ブート整合性の可視性によって、シスコのプラットフォームIDとソフトウェアの整合性情報が可視化され、実用可能になります。プラットフォームIDは、プラットフォームの製造元でインストールされたIDを提供します。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。